

10月号CONTENTS

- 日本の変化について行けますか？
- FRM…財務リスクマネジメント 賢い保険活用で財務力を強化
- 初めてでもわかるリスクマネジメント ここが違う！「危機管理」との違い
- 時流を読む 「民主の政策、経営環境変える」「国際自動車、事業許可取り消し」

日本の変化について行けますか？

第4回 民主党政権で経営に求められる“更なる変化”

日本の政治は民主党に変わりました。まさに、歴史的転換です。民主党の発表では①高速道路の無料化②製造業への派遣禁止③最低賃金の引き上げ、などが打ち出されています。

高速道路無料化でチャンスになる業種は、トラック運送業などがあるかもしれませんが、鉄道、フェリーなどは売り上げ減少のリスクを負うかもしれません。

製造業への派遣禁止で、派遣業や製造業は大きなリスクです。最低賃金の引き上げも、企業にとってコスト増、利益減という結果をもたらします。

このように、チャンスとリスクが入り乱れる政権交代が、今、日本に起きているのです。

まさに歴史的転換ですので、今までの延長線上に答えを持たない方が、良いかもしれません。しっかりと、どのように変わるのかを見て、適切に対応していかなければ、経営はもたないかもしれません。まさに、新しい時代に対応できる経営が求められています。ここは、新しい挑戦を求められているのではないのでしょうか。

今までも、いろいろな変化をしてきました。代表的なものは金融ビッグバンです。

1986・87年のレーガン、サッチャーの金融ビッグバンは'95年に日本にやってきました。その結果、銀行などの金融機関は大きな再編に巻き込まれたのです。三菱東京UFJ銀行は三菱、東京、三和、東海銀行の集合体です。つまり、4つが1つになったのです。その流れが、都銀から地銀に移り、福岡銀

行が熊本ファミリー、九州、親和銀行を飲み込み、西日本、福岡シティ、大分豊和、長崎銀行と統合しました。こうした変化に生き残る力を持っている企業が生き残り、持たない企業が、倒れるか飲み込まれます。

さらに、クリントン政権下には会計ビッグバンも起きました。金融と会計ビッグバンの融合で、ダイエー、ミサワホーム、大京、カネボウなどが倒れ、日興コーディアル証券、三洋電機などは買収を余儀なくされたのです。

こうした流れは、確実に中小企業にも降りてきます。さらに、今回の政権交代でその流れは加速する可能性があります。

しかし、変化は大きなリスクを生みますが、大きなチャンスも生まれます。この時代のチャンスをものにできる、リスクに強い経営体質を持って欲しいものです。

リスクマネジメントが新会社法で取締役の義務になったことは、既に述べました。新しい時代のリスクを丁寧に探し、リスク要因を一つずつなくしていけば、リスクの可能性(特にミスの可能性)は少なくなります。

ミスを少なく、経営資源を見直し、新しい売りに上げに繋げる。これこそが生き残りの経営です。もう一息です。頑張りましょう！

シニアリスクコンサルタント® 浦嶋繁樹

Financial Risk Management

財務リスクマネジメント

「適正保険料で賢く保険活用⇒財務力強化」

保険は、福沢諭吉が日本に伝えたと言われていま
す。保険は「危険を保障」するものであり、リスクに強
くする財務移転手法です。

「リスクに対する財務力の強さは、チャンスを掴む可
能性に比例」します。保険が日本に伝わって、国民・
企業はその分、リスクが強くなり、生活の安定、企業
経営の成長に貢献してきたはずです。ぜひ、保険
をうまく活用することで「財務力強化」に取り組みま
しょう。

保険は、一般的に保険営業、代理店、保険会社を
通じて調達されます。これら担当の方が、リスクに関
するセンスがなければ、契約者はリスクに気付くこ
とが出来ません。これでは、契約者の財務力の低下に
繋がってしまう可能性があります。契約者が、チャン
スを失う可能性が高くなるのです。契約者自身が、担
当の方の能力をしっかりと評価出来ていればよいの
ですが、一般的に契約者は保険のプロではないので、
担当者进行评估することは難しいでしょう。最近増
えているのは、入札方式です。複数の営業・代理店・
保険会社に条件提示をし、そのレベルを比較するの
です。または、コンサルタントに比較させるという方
法も、今後進むでしょう。

さて、保険を多く調達することは、多くの保険料を
支払うこととなります。それは、企業経営にとっても
負担となります。そこでお勧めしたいのは、【自分で

負担するリスクの範囲を明確にする】ことです。

具体的には、例えば、1,000万円まで自社で負担
できるのであれば、免責特約を1,000万円にして契
約します。損害額が1億円、保険金1億円の場合、
1,000万円を除いた9,000万円が支払われます。

また、保障を縮小して加入する方法もあります。
保障が1億円（損害額も1億円）であるならば、その
10%は自社で負担するのです。この契約で事故が
発生した場合、支払われる保険金は90%の、やは
り、9,000万円です。

リスクの種類によって保険料が違いますので、ど
ちらの保険料が下がるのか、比較してみる必要が
あります。

このように、自社の財務負担を多くすることで保険
料は減少します。全部のリスクを保険会社に依存し
ないようにすれば、その分、保険料は減少するの
です。その減少した分で、今まで未契約だった、或い
は契約出来なかった、個人情報・貸倒れ・地震など
のリスクに対する保険を調達します。そうした対応を
することで、適正な保険料を確保できるのです。

新しい時代は新しいリスクが増えています。新し
いリスクに対応するためにも、適正な保険料を見つ
けるためにも、保険の見直しをお勧めいたします。

シニアリスクコンサルタント® 浦嶋繁樹

《免責特約条項》

移 転	10,000万円
保 有	1,000万円

《縮小てん補条項》

移 転	保 有
90 %	10 %



ここが違う！

「リスクマネジメント」と「危機管理」

危機管理もリスクマネジメントの一手法

旧通産省の下で「危機管理システム構築のための指針」として進められていたプロジェクトが、2001年3月20日に、経済産業省からJIS規格「リスクマネジメントシステム構築のための指針」として発表され、日本が正式に「リスクマネジメント」を導入及び定着化の必要性を認めました。これによって、従来の「危機管理」では企業を守れないという事、さらに「危機管理」と「リスクマネジメント」とは違う、ということが明確になりました。

それでは「リスクマネジメント」と「危機管理」とはどう違うのでしょうか。

それを理解するために、「Risk(リスク)」と「Crisis(危機)」の違いを確認しましょう。

危機というのは、既に発生した事態を指しています。これに対して、リスクは未だ発生していない危険をさします。ここから、「危機管理」と「リスクマネジメント」の違いが見えてきます。

つまり、「危機管理」というのは、既に起きた事故や事件に対して、そこから受けるダメージをなるべく減らそうという発想です。だから、大災害や大事故の直後に設置されるのは、「危機管理室」や「危機管理体制」などと呼ばれています。

これに対して「リスクマネジメント」は、これから起きるかもしれない危険に対して、事前に対応しておこうという行動です。

ここからも分かるように、リスクマネジメントの特徴は

常に前向きで能動的である点です。なぜなら、リスクは常に未来に存在しているからです。リスクは未来に存在し、リスクの要因であるハザードは過去に存在しています。それを管理できなければ、「危機」につながっていくのです。

「Risk」の語源は、「絶壁の間を船で行く」という意味だといわれています。たとえ兩岸が絶壁であっても、あえてそこを抜けないことにはチャンスに巡り合う可能性がない。リスクは「自ら覚悟して冒す危険」であり、「冒険」と訳するのが正解でしょう。「リスクを冒すからこそチャンスが訪れる。行くのはリスクかもしれないが、行かないのもまたリスク。」例えば、企業が海外へ進出するには大きなリスクを伴いますが、進出することによって大きなプラスを得るチャンスも含んでいます。

一方、「危機(Crisis)」の語源は、「将来を左右する分岐点」といわれています。危機管理は、既に起きた事態を扱うものであり、受動的にならざるを得ません。マイナスをいかに減らすかが目的であり、受動的な発想であるが故に、大きな損失につながりやすいのです。

ただし、ダメージからうまく回復して、企業や組織をプラスの方向に向かわせる、という点で、危機管理もリスクマネジメントの一手法であるといえます。

※次回は、リスクマネジメントの必要性について取り上げます。

第149回全国リスクマネジメント研究会：10月14日(水)18：30～ 於：(株)日本アルマック セミナール

「裁判員制度の正しい理解と対応」～貴社は裁判員制度への準備ができていますか？～

講師：吉原隆平様 ひびき綜合法律事務所 弁護士

※詳細は、末尾記載の連絡先にお問合せ下さい。

時流を読む

リスクに対する感性が高まれば、自ずと時代の「先」を読む力が備わってきます。最新ニュースをリスクマネジメントの視点で分析し、今後の展開や社会への影響を予想してみましょう。

民主の政策、経営環境変える

政権の歴史的転換から、高速道路が無料になるとか。「渋滞するのでは?」「CO₂、環境に悪影響では?」「車を持っていないから恩恵はない」という声が聞こえます。果たしてそうだろうか?

高速道路の無料化で、渋滞が多くなるのでは?という意見に、私は、あまりならないのではないかと考えている。理由は、料金所があるから出口が少ないわけで、無料にすれば、料金所自体不要になるため、出口を増やせて渋滞は緩和できるのではないだろうか。

次に、CO₂の排出量だが、私の車で東京で運転するときは10あたり8.6km走るが、高速では12.8km走った。つまり、1.5倍近く燃費効率が上がったのだ。燃費効率を落としているのは、信号機と渋滞だったのではないかというのが、私の結論だ。

車を持っていない人に恩恵はないのかということについては、充分あると思う。なぜか。高速道路代分の運送費が下がれば、流通コストが下がる。その分だけ食料品など生活費の値下がり還元されるはずだからだ。少し時間はかかるだろうが、確実に下がるはずと見ている。

国際自動車、事業許可取り消し

「行政も厳しくなっていますね。」というのが実感だ。日本の行政が何もしない、というイメージがあるかもしれないが、法律は確実に通過し、その法律で企業は裁かれている実態を直視するべきだろう。ここ数年、公益通報者保護法の施行など、企業は、内部から暴き出されながら淘汰されて来た。そしてこの度は、「残業、超過勤務の改善がなされていない」ということで、免許が取り消されたのだ。

一方、独禁法改正により、公正取引委員会は、日鉄住金鋼板、日新製鋼、淀川製鋼所に155億円の課徴金を加えた。請け負った仕事からは利益が出ないし、赤字になる可能性も高い。

今回の国際自動車も、労働法、運輸行政などの縛りで、免許取り消しとなった。特に運送業は「運輸安全マネジメント」が施行され、運送業大手(300両)は「安全統括管理者」を置かなければならない。これは、リスクマネジメントの役員クラスに該当する。もう一度、自分の周りの法律をチェックしてみていただきたい。

本コーナーは、(株)日本アルマック主催セミナー「全国リスクマネジメント研究会」の内容を編集したものです。セミナーの概要、参加申込方法等については、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

バットの木は、自然が何十年も掛けて育てています。僕のバットは、この自然の木から手作りで作られています。グローブも手作りの製品です。

一度バットを投げた時、非常に嫌な気持ちになりました。自然を大切にし、作ってくれた人の気持ちを考えて、僕はバットを投げることも、地面に叩きつけることもしません。

プロとして道具を大事に扱うのは当然のことです。

アメリカ大リーグ史上初の9年連続200安打を達成(2009年9/13)したイチロー選手のことは彼のこだわり、美学はそのまま彼のうみ出す結果に繋がっているようですね。目が離せません。(櫻井)



ご意見・ご要望は上記までお寄せください。